

「平成20年度 第3回 飯塚市議会定例会」において
行った「うへの伸五」の一般質問です。

(以下は質疑内容ですが、私の記録・答弁者からの聞き取りを、まとめたものですので議事録と全く同じではないという事を、ご承知おき下さい。)

~~~~~

(うへの伸五)

学校教育と地域との連携についてお聞きします。

本年度から、市内の頼田・菰田の2つの地区が小中一貫教育の研究指定校とされておりますが、現在までの進捗状況を教えて下さい。

~~~~~

(学校教育課長)

お答えいたします。

ご指摘がありました市内2つの中学校区では、それぞれに小中合同部会を設置し、取り組みを進めております。

また、先進事例の収集のために、県内の研究指定校視察に行ったり、先進校から講師を招聘して、校内研修を実施したりしています。

また、小中の教員による授業交流や中学校3年生が、小学校6年生へ、水泳のサポート指導を実施するなど、実践的研究も始まっております。

~~~~~

(うへの伸五)

飯塚市が、この小中一貫教育を推進する、そもそもの目的について教えて下さい。

~~~~~

(学校教育課長)

お答えいたします。

小中一貫教育を推進するにあたりまして、本市における学校教育の課題は、大きく2点であります。

一つは、学力の問題であり、小学校高学年から中学校1年にかけて、学力不振の児童生徒が急増していることでもあります。

二つ目は、不登校の問題であり、中学校入学時に、不登校生徒が急増していることでもあります。

現在、それぞれに取り組みを進めてはおりますが、いわゆる中1ギャップに起因するこれらの問題を、抜本的に解決する方策は見いだせておりませんでした。そこで、子どもたちにとっての、小

学校と中学校の壁を取り除き、9年間トータルで教育を行う、小中一貫教育という方策により、学力の定着や、不登校を生み出さない飯塚市の、学校教育の実現を図ることを目的としています。

~~~~~  
(うへの伸五)

具体的な構想とか、イメージされている事がありますか？

~~~~~  
(学校教育課長)

お答えいたします。

現在、本市におきましても、生活面や学習面で、特に配慮を要する子どもたちの情報共有や授業公開という、いわゆる「小中連携教育」につきましては、すでに全校区で実施しております。小中一貫教育とは、それをさらにもう一歩進めて、小中の、つながりを強めた教育実現を目指すものです。

例えば、小学校高学年に部分的に、中学校のような教科担任制を導入し、その場面に中学校の教員が専門的支援を行ったり、逆に、中学校1年生の授業に小学校の教員が、個別支援の形で参画したりすることが考えられます。

また、小学校の生徒指導委員会に中学校の担当者も参加し、あるいはその逆の形によって、子どもの状況把握を的確に行うことで、中学校入学時に必要な情報の欠落を防ぐことができます。

さらに、授業や学校行事での小中の子どもたちの交流を仕組むことで、子どもたちにとっての中1ギャップを軽減することもできるものと考えております。

このような具体的な教育実践とともに、子どもたちの義務教育9年間を見通して「生活や学習の基礎基本を身につけさせる段階」「子どもたちの主体性を尊重しながら個性を伸ばす段階」「自らの目指す進路を切り開かせる段階」という3段階のシステム化と、それに伴う教育プログラムを作成することを視野に入れております。

~~~~~  
(うへの伸五)

なるほど、教育委員会として、様々な試みをお持ちであることは、理解できました。

しかし、各学校におかれても、これまでの教育財産をお持ちだと思います。どこも押しなべて、同じ発想では上手く行かないのではないかと、具体的な内容や実施時期については、学校現場の意思を尊重することも必要ではないかと考えますが、いかがでしょうか？

~~~~~  
(学校教育課長)

お答えいたします。

本年8月以降、調査特別委員会でのご指摘もあり、公共施設の在り方に関する基本方針をもとに、幼稚園長や学校長などの意見を聴取する機会を設けております。実施計画策定の折には、特に該当する現場の声に耳を傾け、よりよいものにしていきたいと考えております。

~~~~~

(うへの伸五)

子ども達が抱える諸問題の解決については、学校・家庭はもちろん、地域を巻き込んだ取り組みが、より効果があると考えます。各地域にも、それぞれに培ってきた地域特性があります。学校という枠だけにとらわれた構想ではなく、地域の教育力を活かした学校づくり、という発想を広げていただきたいと思います。

そこで、現在、飯塚市独自で行われている、地域の教育力を活かした事業についてお聞かせ下さい。

~~~~~

(中央公民館長)

現在、人材派遣につきましては、中央公民館におきまして「生涯学習ボランティアネットワーク事業」に取り組んでおりまして、学校教育や公民館事業へ、多彩な人材を派遣しております。

学習支援ボランティアの活動分野といたしましては、歴史や文化芸術からパソコンなどの科学技術、健康、スポーツの支援、読み聞かせなど多種多様な分野での登録があり、それぞれの派遣依頼に応じた様々な支援を行っています。

登録者につきましては、9月現在で895名(男336女559)の登録がっております。

~~~~~

(うへの伸五)

学校での活用実績と、学校以外での実績について教えていただけますか？

~~~~~

(中央公民館長)

学校での活用実績につきましては、卓球、バドミントン、などのスポーツ指導や、習字、英会話、手話など幅広い分野において活用されております。派遣人員といたしましては、平成19年度は延べ1334名、平成20年度は現在までに延べ293名の派遣を行っています。

また、学校以外の施設への派遣につきましては、伝承遊びや囲碁将棋、読み聞かせ等を中心に児童センターや保育所、自治公民館など様々な所へ派遣しております。派遣人員といたしましては、平成19年度は延べ438名、平成20年度は現在までに延べ128名の派遣を行っています。

~~~~~

(うへの伸五)

今後、学校への支援策について、具体的に考えられている事があれば 教えて下さい。

~~~~~

(中央公民館長)

今後の学校教育への支援策につきましては、学校現場への「生涯学習ボランティアネットワーク事業」の普及促進に努めるとともに、人材の発掘を含め、学校の要請に即応できる体制づくりに努めてまいりたいと考えております。

また、熟年者を対象に市内の小学校の余裕教室を活用した「熟年者マナビ塾」事業における学校支援につきましても、体育での体力測定や、家庭科でのミシンがけなどの授業支援、運動会での用

具作成や、七夕集会における短冊作りなどの行事支援などを積極的に行っており、今後とも更なる充実を図ってまいりたいと考えております。

~~~~~  
(うへの伸五)

地域ボランティアの方々が、子ども達と触れ合う。この事により、お互いに得るものは、極めて大きいのではないかと思いますし、特に高齢者の皆さんには、生きがいや、活力を養う原動力にもなるのではないのでしょうか。是非、積極的な取り組みを進めていただきたいと思います。

次に、学校や地域が自ら取組んでいる事例があれば教えて下さい。

~~~~~  
(学校教育課長)

お答えいたします。

いくつか事例はございますが、ここでは、特徴的な二つのものをご報告させていただきます。
ある中学校では、生徒の生活面での落ち着きを取り戻すために、学校内では毅然とした指導と個別指導を併用した取組を進めるとともに、学校外では、教職員・保護者はもちろんのこと、地元の青少年健全育成会に加え、地区保護司会や関係各課の協力の下、本年5月から定例の夜間補導を実施しております。

このことにより、地区の青少年の補導件数が激減し、授業態度が落ち着いただけでなく、学校が問題を抱え込まなくなったことから、地域からの学校に対する信頼も回復しつつあるとの報告を受けております。

また、学校の教育課題の説明を受けたPTA役員や地域の有志が中心となり、学校教育支援ボランティアを組織し、補充学習や進路学習の支援をはじめようとしている学校もあります。学校教育課といたしましても、そのような動きに対し、できる限りの支援をしていきたいと考えております。

~~~~~  
(うへの伸五)

それぞれの地域で、子ども達のために出来ることから取組んでいっしょに、とても素晴らしいことだと思いますし、学校と地域のつながり、まさにこれは、市長が掲げておられる「協働のまちづくり」の一環であると考えます。ご紹介のあった事例のほかにも、潁田地区では、今年度から、少年野球チーム潁田ライオンズと潁田中学校野球部の合同練習を定期的に行いながら、子ども達同士、小中学校の交流を深めております。

また、PTAと、自治会長会を中心に組織する教育部会や、地域の方々も加わり学校施設や周辺の整備も、大々的に行われるなど教育特区で培ってきた教育財産や地域特性とともに、学校と地域との、強い信頼関係が、現在でも受け継がれています。

小中一貫教育・学社連携の教育モデルケースとして飯塚市全体へ、より広く浸透させるためには、行政にも、出来る限りの環境整備をお願いしたいと考えているのですが、この点、いかがでしょうか。

~~~~~  
(学校教育課長)

お答えいたします。

確かに、教育内容や教育活動などの面では、学社融合の考え方で学校教育を行うことは、大変効果が期待できるものであります。

しかしながら、施設面などと併せて検討していくことも必要になると思われまますので、公共施設等の在り方に関する調査特別委員会におきまして、その点も踏まえて、十分論議を深めたいと考えております。

~~~~~

(うへの伸五)

全ては愛する子ども達のために。

小中学校が、地域住民や行政と密着することにより、子ども達や教師が、安心して授業に取組め、地域にも活力を与える、そんな理想的な教育現場を創造するために、教育委員会として、強力なリーダーシップを発揮していただきたい。と、よろしく願い申し上げまして、この質問を終わります。